

プレスリリース

PRESS RELEASE

第8回中之島映像劇場

ジョナス・メカス カメラ、行為、映画

Jonas Mekas : Camera, Action, Films



《リトアニアへの旅の追憶》(1971~72年)の一場面

©Jonas Mekas

【日時】

2014年10月18日(土)、19日(日)

両日ともに

13:00~ Aプログラム(97分) 《リトアニアへの旅の追憶》※冒頭に解説(15分)

15:00~ Bプログラム(78分) 《営倉》※アフタートーク(10分)

【上映作品】

《リトアニアへの旅の追憶／Reminiscences of a Journey to Lithuania》

(1971～72年／16mm／カラー／サウンド／82分)

《営倉／The Brig》

(1964年／16mm／白黒／サウンド／68分)

【会場】

国立国際美術館 B1 階講堂

入場無料／全席自由／先着 130 名

午前 10 時より各プログラムごとの整理券を配布／1 名様につき 1 枚

両日とも同一プログラム、各回入れ換え制

主催：国立国際美術館

協賛：公益財団法人ダイキン工業現代美術振興財団

協力：フィルムメーカーズ・コーポラティヴ (Film-makers' Cooperative)

アンソロジー・フィルム・アーカイヴス (Anthology Film Archives)

趣旨

「美術と映像」という主題で多様な映像作品の上映を行ってきた中之島映像劇場。第 8 回では世界的に高名な映画作家ジョナス・メカスの 60 年代及び 70 年代の代表作をそれぞれ 1 作品ずつ紹介します。メカスは日記映画という独自の形式を創り出しました。身の回りの出来事や風景を撮影することは、もともとは個人の趣味や記念の目的で行われていました。それがメカスによって実験映画・個人映画の手法として見いだされ、その後多くの人に影響を与えています。

カメラはレンズの前にある事象を捉え映像に記録します。それは部分的にはオートマティックに行なわれますが、大部分は撮影者の能動的な選択と行為によってなされます。そこには写された対象だけではなく、撮影者自身の行為が記録されています。このあたりまえのことを日記映画は素朴に、そしてそれ故に強く表すことができるのです。

メカス自身が映画カメラを手に取り、身の回りを撮影し始めたのは 1950 年のことですが、日記としての映画ということに自覚的になったのは、それから 15 年近く経ってからのことでした。この着想は 3 時間もの大作《ウォールデン—日記、ノート、スケッチ》(1968 年) としてまとめあげられています。このような経緯から、メカスの映画作品は《ウォールデン》以前と以降で趣が変わっています。このことを少し頭に置いていただき、行為の帰結としての映画フィルムを観ていただけたらと思います。そこには映画とは何か、表現するとは何かという根源的な問いを認めることができるでしょう。

作家紹介

ジョナス・メカス／Jonas Mekas 1922- リトアニア生まれの映画作家、詩人
1944年に弟アドルフアスとともにリトアニアを脱出するも、エルムスホルン収容所に収監される。逃亡中に終戦を迎え、難民としていくつかのキャンプを転々とした後、1949年にニューヨーク、ブルックリンにたどり着く。ここで中古のボレックス（16ミリ映画カメラ）を手に入れ、身近なものを撮影し始める。1958年にアドルフアスと「フィルム・カルチャー」誌を発刊、「ヴィレッジ・ヴォイス」誌でコラム「ムーヴィ・ジャーナル」を連載する。ニュー・アメリカン・シネマの紹介者として、執筆、上映活動を展開する。1962年には映画作家自身による配給システムとしてフィルムメーカーズ・コーポラティヴを立ち上げ、さらに作品の収集公開を目的にアンソロジー・フィルム・アーカイヴスを1970年に開設する。

日記映画というスタイルを確立し、数多くの作品を生み出し、また詩人としても多くの詩集を出している。近年ではWEB上で展開する「365日プロジェクト」（2007年）など、新たな形にも取り組んでいる。

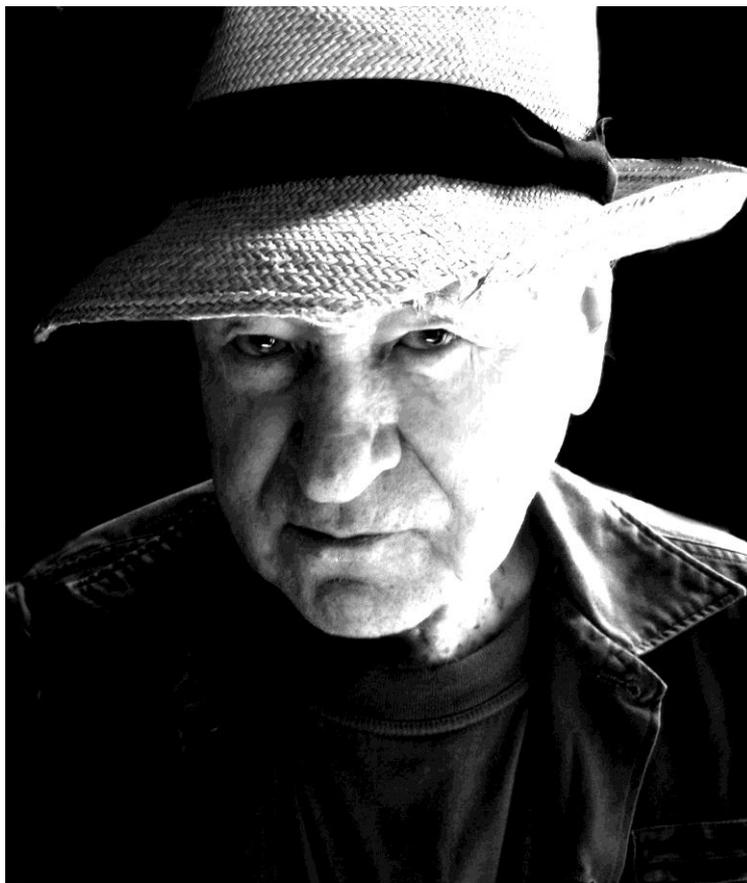


photo : Benn Northover

作品紹介

《リトアニアへの旅の追憶／Reminiscences of a Journey to Lithuania》（1971-72年、16mm、カラー、サウンド、82分）

3つのパートで構成された日記映画。第一部はメカスがニューヨークに来て最初に手に入れたボレックス（16mm映画カメラ）で撮影した1950年頃のブルックリンの風景。第二部は1971年8月に27年ぶりに訪れた故郷リトアニア、セメニシュケイ村での母、家族との再会。第三部はドイツ、エルムスホルンの収容所跡、そしてウィーン訪問と友人たちと過ごす時間をとらえている。

《営倉／The Brig》（1964年、16mm、白黒、サウンド、68分）

ケネス・ブラウン戯曲、リビング・シアター上演の同名舞台の記録。営倉の囚人（海兵隊員）と看守との暴力的で理不尽なやりとりを実際にルポルタージュしているかと思ふカメラワークで撮影している。この作品で、1965年にヴェネチア映画祭ドキュメンタリー部門で大賞を受賞。

【展覧会情報】

本上映会の開催時には以下の展覧会を開催中です。

「ジャン・フォートリエ展」「コレクション2」

2014年9月27日[土]から12月7日[日]まで

【お問い合わせ先】

国立国際美術館（530-0005 大阪市北区中之島4-2-55）

学芸課 安藤由布子

E-mail: kouhou@nmao.go.jp

電話：06-6447-4680（代表）

FAX：06-6447-4698

【上映会担当】

大橋勝（客員研究員）

JONAS MEKAS

CAMERA, ACTION, FILMS

2014. 10. 18. SAT.
2014. 10. 19. SUN.

A PROGRAM 13:00 -

冒頭に解説あり(15分)

REMINISCENCES OF A JOURNEY TO LITHUANIA

リトアニアへの旅の追憶

B PROGRAM 15:00 -

アフタートーク(10分)

THE BRIG

営倉

国立国際美術館B1階講堂

入場無料/全席自由/先着130名

午前10時より当日の各プログラムの整理券(1名様につき1枚)を配布

※ 両日ともにA、Bプログラムを上映・各プログラム入れ替え制となります

主催:国立国際美術館 協賛:公益財団法人ダイキン工業現代美術振興財団

協力:フィルムメーカーズ・コーポラティブ、アンソロジー・フィルム・アーカイヴス





ジョナス・メカス カメラ、行為、映画

「美術と映像」という主題で多様な映像作品の上映を行ってきた中之島映像劇場。第8回では世界的に有名な映画作家ジョナス・メカスの60年代及び70年代の代表作をそれぞれ1作品ずつ紹介します。メカスは日記映画という独自の形式を創り出しました。身の回りの出来事や風景を撮影することは、もともとは個人の趣味や記念の目的で行われていました。それがメカスにより実験映画・個人映画の手法として見いだされ、その後多くの人に影響を与えています。

カメラはレンズの前にある事象を捉え映像に記録します。それは部分的にはオートマチックに行なわれますが、大部分は撮影者の能動的な選択と行為によってなされます。そこには写された対象だけではなく、撮影者自身の行為が記録されています。このあたりまえのことを日記映画は素朴に、そしてそれ故に強く表すことができるのです。

メカス自身が映画カメラを手に取り、身の回りを撮影し始めたのは1950年のことですが、日記としての映画ということに自覚的になったのは、それから15年近く経ってからのことでした。この着想は3時間もの大作《ウォールデン—日記、ノート、スケッチ》(1968年)としてまとめあげられています。このような経緯から、メカスの映画作品は《ウォールデン》以前と以降で趣が変わっています。このことを少し頭に置いていただき、行為の帰結としての映画フィルムを観ていただけたらと思います。そこには映画とは何か、表現するとは何かという根源的な問いを認めることができるでしょう。

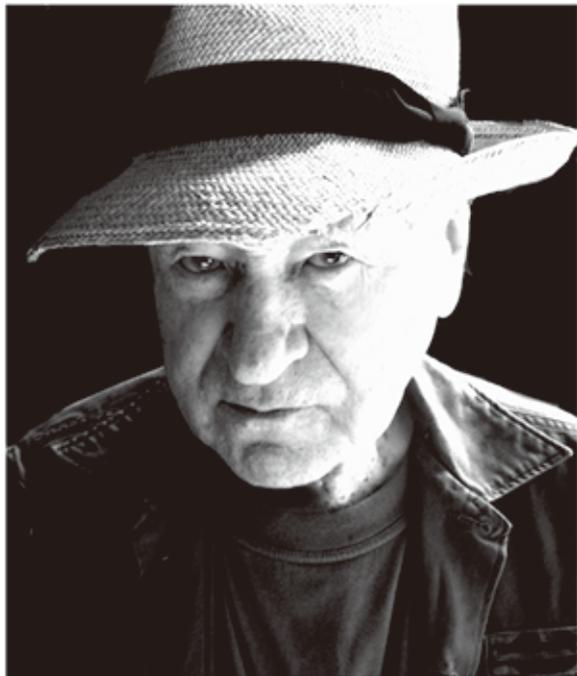


Photo: Benn Northover

ジョナス・メカス 1922年 リトアニア生まれ 映画作家、詩人

1944年に弟アドルフとともにリトアニアを脱出するも、エルムスホルン収容所に収監される。逃亡中に終戦を迎え、難民としていくつかのキャンプを転々とした後、1949年にニューヨーク、ブルックリンにたどり着く。ここで中古のボレックス(16ミリ映画カメラ)を手に入れ、身近なものを撮影し始める。1958年にアドルフと「フィルム・カルチャー」誌を発売、「ヴィレッジ・ヴォイス」誌でコラム「ムーヴィー・ジャーナル」を連載する。ニュー・アメリカン・シネマの紹介者として、執筆、上映活動を展開する。1962年には映画作家自身による配給システムとしてフィルムメーカーズ・コーポラティヴを立ち上げ、さらに作品の収集公開を目的にアンソロジー・フィルム・アーカイヴスを1970年に開設する。日記映画というスタイルを確立し、数多くの作品を生み出し、また詩人としても多くの詩集を出している。近年ではWEB上で展開する「365日プロジェクト」(2007年)など、新たな形式にも取り組んでいる。

A PROGRAM 13:00 - REMINISCENCES OF A JOURNEY TO LITHUANIA

リトアニアへの旅の追憶



© Jonas Mekas

(1971~72年/16mm/カラー/サウンド/82分)

3つのパートで構成された日記映画。第一部はメカスがニューヨークに来て最初に手に入れたボレックスで撮影した1950年頃のブルックリンの風景。第二部は1971年8月に27年ぶりに訪れた故郷リトアニア、セメニシュケイ村での母、家族との再会。第三部はドイツ、エルムスホルンの収容所跡、そしてウィーン訪問と友人たちと過ごす時間をとらえている。

B PROGRAM 15:00 - THE BRIG

営倉



© Jonas Mekas

(1964年/16mm/白黒/サウンド/68分)

ケネス・ブラウン戯曲、リビング・シアター上演による同名舞台の記録。営倉の囚人(海兵隊員)と看守との暴力的で理不尽なやりとりを実際にルポルタージュしているかと思ふカメラワークで撮影している。この作品で、1965年にヴェネチア映画祭ドキュメンタリー部門大賞を受賞。



国立国際美術館

T530-0005

大阪市北区中之島4-2-55

TEL 06-6447-4680(代表)

地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」
(3番出口)より西へ徒歩約10分

京阪電車中之島線「波辺橋駅」
(2番出口)より南西へ徒歩約5分

展覧会情報 本上映会時には以下の展覧会を開催中。

「ジャン・フォートリエ展」「コレクション2」…………… 2014年9月27日(土)~12月7日(日)